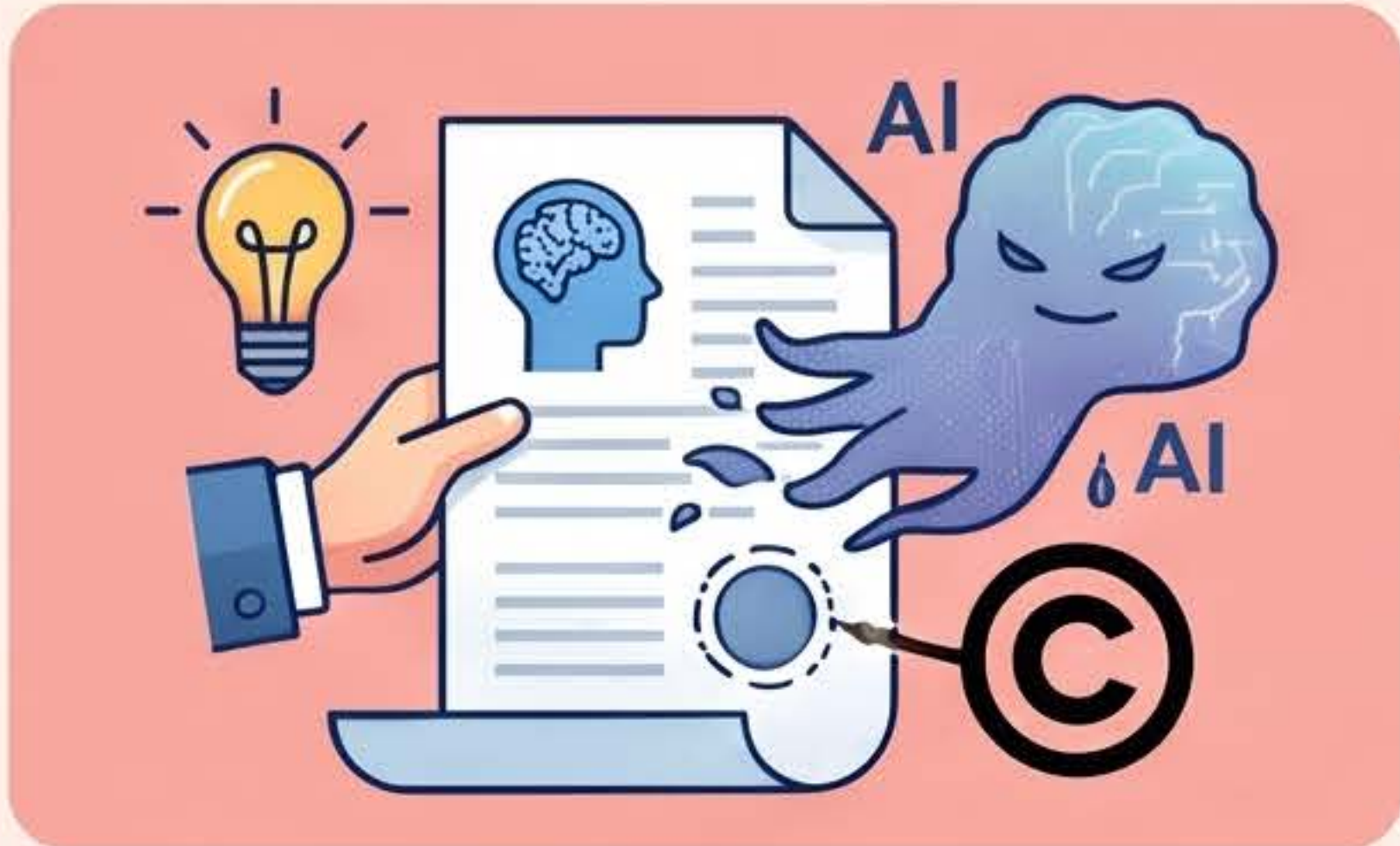


フロンティアAIが変える知的財産実務の未来：Anthropicリスクレポート（2026年8月）からの提言

顕在化する知的財産実務の3大リスク



AI自律生成による「権利喪失」の危機
人間の創作的寄与が証明できない成果物は、著作権や特許権が認められず公有（パブリックドメイン）化する恐れがあります。



営業秘密の「管理性」が無効化するリスク
監視不十分なAIエージェントが機密データにアクセスすることで、法的保護要件である「秘密管理性」が失われる可能性があります。

送客を伴わない「非対称なスクレイピング」の常態化



	GoogleBot (Google)	Perplexity (Perplexity)	ClaudeBot (Anthropic)
特徴	検索結果として元サイトへ高い頻度で送客する	対話型検索により送客が減少傾向にある	ほぼ全ての情報を内部学習・回答生成に利用し、送客しない

収集回数と元サイトへの誘導比率（Crawl-to-Refer）が4,580:1に達し、コンテンツの市場価値を直接阻害しています。

知財を守るための3つの実践的対策



「開発履歴管理（IP Audit Trail）」の構築
人間による指示（プロンプト）や修正プロセスをタイムスタンプ付きで保存し、創作的寄与を客観的に証明します。

契約における「賠償責任上限（Liability Cap）」の除外要求

ベンダー側の重大な過失や安全フィルター停止に起因する侵害については、賠償制限を受けない完全補償を規定します。



全球的ウォーターマーク（不可視透かし）への対応
出力物に埋め込まれたAI識別情報を検知するツールを導入し、社内のシャドーAI利用や著作権主張のリスクを管理します。